

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	しまねのふるまい推進プロジェクト事業		
目的	(1) 対象	市町村（小学校区等の地域）	
	(2) 意図	「親学プログラム」（保護者に親としての役割や子どもとの関わり方の気づきを促す学習支援プログラム）や親学ファシリテーター（親学プログラムの進行役）を活用して保護者対象の研修会を行う市町村の取組を支援したり、親世代や親子でのふるまいに関する取組を推進する公民館に助成したりすることにより、地域におけるふるまい推進の気運醸成を図る。	
事業概要	○各市町村がふるまいの定着や家庭教育支援に関する学習会において、親学プログラムを実施する。 ○親世代をはじめとする大人のふるまいの意識を高め、それらを地域全体に広げるために公民館ふるまい推進事業を実施する公民館に対し、活動費を助成する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	1年間県内各市町村で親学プログラムを活用した研修が60回程度実施される。	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
				式・定義	19市町村×3回=57回	目標値	0.00	0.00	
			実績値	0.00	0.00	189.00	170.00		
			達成率		0.00	315.00	283.40		%
成果参考指標	指標名	1年間に40箇所の公民館においてふるまい推進に関わる学習活動が実施される	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
				目標値	0.00	0.00	40.00	40.00	
			実績値	0.00	0.00	43.00	37.00		
			達成率		0.00	107.50	92.50		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,100	1,554
うち一般財源(千円)	2,100	1,554

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> <li>親学プログラムを活用した研修会を170回実施し、4,890名の保護者等に学習機会の提供をし、親学プログラムを活用した家庭教育支援は普及してきた。</li> <li>公民館等において、ふるまい推進に関わる取組が行われている。</li> </ul>
---

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館等を中心とした「ふるまい推進」につながる主に親子で行われる様々な学習活動を支援した。</li> <li>その成果を冊子にして配布し、ふるまいの大切さを多くの県民に伝えることができた。</li> </ul>
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親学ファシリテーターの意識や力量に差がある。</li> </ul>
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親学ファシリテーターとしてのファシリテート回数の多少による。</li> </ul>
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親学ファシリテーターの意識や力量を高める必要がある。</li> </ul>

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> <li>親学ファシリテーターのフォローアップ研修の実施や、ファシリテーター同士のつながりがもてるように市町村を支援し、親学プログラムの普及を図る。また、新しいプログラムの開発も行う。</li> </ul>
---

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--